

・プロローグ (フリーゾンの部)  
① 国東半島 走っても走ってもあまり変わりばえのしない風景、つまりは日本中どこにでもありそうな田園風景の中に突然岩に振られた仏か像を見る。

もし本当に国東の仏を見たいなら迷子覚悟で適当な横道に入つて見ると良い、それこそ500mも行かない内に、風景に溶け込んだ様な、半分風化した野仏に出会えるだろう。

熊野密崖仏、さすがに自転車を放棄せざるを得なかった。な人ともすごい荒積みの石段を登ってや。とたどりついた所に死体はあった。それと並ぶのはあまりにも不適當だ、彼は、あまりにも老人間的すぎる。

国東の仏たちは、寺院の本堂におさまってとりましている仏たちが、どことなくとぼけた人間的な所がある。

そしてそこにあるのが、少しも不思議でない。

② 九重高原、どことなく大陸的な、それでいて荒れた感じのない道である。山なみハイウェイを走るのも良いが、長者原で横道にそれて見るともっと良い。サイクリングは路線バスじゃない、もし急がないなら細い方の道を通る方がおもしろい。

河原湯で一泊して、瀬ノ本へ向かう。地熱発電所を過ぎると登りも終り、瀬ノ本までまた高原の道を行く。

そして、竹田へと信じられない様なダウンスル  
 距離的にも時間的にもスバルラインより短かったはずだが未知  
 の道であったせいか直線が多く、スピードが出たせいか、とても夏  
 く感じられた。白井へ向る。



九重高原の川

◎ 本題 昨年に引きつづき雨かんむりの日々

。宮崎駅前、西都原古墳群から到着、合宿に入る。物一名自  
 転車はドロだらけにつかれた様な顔をしている。

。露天風呂、最早、日は暮れポルテはぶ。とんで行き、不動  
 池で後を待つ。伝令が来る、「オーイ、バックだ。露天風呂で泊ま  
 るぞ。」

そんな先もしたなどとまが訳けじつとも反省、つ。せしりほ  
 自くなりおや、ぱり。

「暑をっまされても解からない闇の中、傘ささぐり足さぐりで露天風呂に入る。星がふる様在下ニ礼で酒でもあれば最高な人やけどな。M氏のおなら一発が出る。ゴボッ」

。大池、梅島見り、なぜかこの日の朝。ぼろ暑く年人では全員グロッキー。この日、大分で28℃を記録。

その夜 海水浴場にキャンプ。O氏のオプテマスM氏のに引き続き火を吹く。これをアサブの池田と人はまふ。O氏ハウいせは鶴江湾に何かをぶちこんだぞぞである。か以後鶴江湾ではO氏の顔をしたオボハむかとれるという話である。

。梅島、CIVICのオバ様に千円もらった。やっぱり雨が降った。やけくそに降りよったのでS<sub>3</sub>氏の宿決めの第一弾が出て眼前C総旅館に泊まる事ができた。トン骨はうまかった。

。梅宿、やけくそに吹く向い風と雨、それにしてもかったるい道であ。左。

。ワールド九州、車が来ないのを車い事にちょっとあそぶ。加世田に着いたとたん雨が降り出す。これまたやけくそにふるもんだから吹上流でS<sub>3</sub>氏の宿決めの第二弾が出る。

翌日も雨で停滞、伊作まで重い物に行き、降りは一台中のタクシーに運転手ふくめて6人つめこんで帰る。

S<sub>3</sub>氏かせを引き、この日から五日なるベリーク戦始まる。や左ら「エイーン、ユンユンユーン」がはやる。(榎太郎さむし参考)

